

## 継続教育記録の保存と受講履歴の統一化に関するアンケート調査の概要

東京工業大学 正会員 川島 一彦

### 1. はじめに

技術革新とその進展を図り、我が国の国際競争力の強化を図るためには、専門的分野における技術者職務能力開発が重要となっている。現在、多数の学協会が継続教育に取り組みつつあり、今後、複数の学協会にまたがって継続教育を受講する機会が増加していくと考えられる。複数の学協会にまたがって継続教育を受講する場合には、異なる学習プログラムで取得した単位間に互換性を持たせ得るための方策を検討すると同時に互換性ルールを明確にすることが重要となる。このような点から日本工学会PDE協議会委員会・受講履歴統一化専門委員会では、PDE協議会加入の37学協会に属する会員を対象に、どのような継続教育受講履歴の管理方法と受講履歴の統一化が求められているかを検討する一環として、アンケート調査を平成17年12月～平成18年1月に実施した。本報告は、その概要を紹介するものである。

### 2. アンケート調査の概要

アンケート調査は、PDE協議会加盟の37学協会に属する個人会員を対象として行った。各学協会の担当委員に依頼し、学会会員の中から専門分野、所属機関、年齢、継続教育の必要性に対する認識度等を勘案した上、現在すでに継続教育を始めている学協会では20名程度、まだ継続教育を始めている学協会では10名程度を目安に選定し、アンケート用紙を電子メール添付で会員に送信し、電子メールで日本工学会事務局まで回答するように依頼した。なお、まだ継続教育を開始していない学協会では、継続教育のあり方を一般会員に聞いてもよくわからない可能性があるため、継続教育に関して検討されている委員会の委員等、ある程度継続教育に経験なり知識を持っている会員にアンケート調査を依頼した。この結果、173名から回答を得ることができた。

### 3. CPD記録をどの学協会に保存すべきか？

継続教育システムが各学協会に充実してくると、いくつかの学協会にわたって技術者が継続教育を受講する機会が増えてくると考えられる。これに伴って、継続教育を受講したという記録（以下、CPD記録と呼ぶ）が複数の学協会にまたがって存在することになってくると、これらの学協会間でCPD

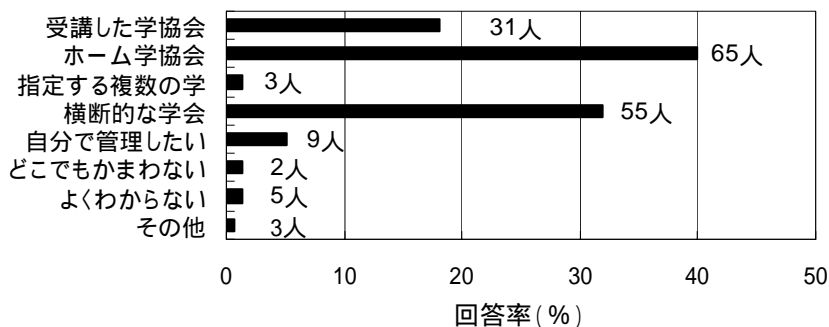


図-1 CPD記録をどの学協会に保存すべきか

D記録をどのように管理しておくべきかが問題になってくる。将来複数の学協会から提供される継続教育を受講したとした時に、これらのCPD記録をどこの学協会に管理しておきたいと考えているかについて聞いた結果が図-1である。これによれば、ホーム学協会に管理してほしいとの回答が38%と最も多く、以下、日本工学会のように、技術横断的な学会で一元的に管理してほしいが32%、受講した学協会に管理してほしいが18%となっている。自分で管理したいとの回答は5%に過ぎず、予想よりも少なかったことが特徴的である。

なお、上記でホーム学協会に管理してほしいと答えた方だけを対象に、この理由はなぜかも調査している。これによれば、ある特定の学協会にCPD記録を蓄積した方が、将来のCPD記録の利用上便利だからとの回答が79%を占め、大部分の継続教育はホーム学協会を受講すると思われるためとの回答が19%となっている。

キーワード 継続教育, CPD, PDE

連絡先 〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 TEL 03-5734-2922

**4. どの機関がCPD記録を発行すべきか？**

継続教育の受講が専門家にとって重要となり、技術者資格の更新等に必要になると、CPD記録の証明（以下、CPD取得証明書と呼ぶ）が必要になってくる。複数の学協会

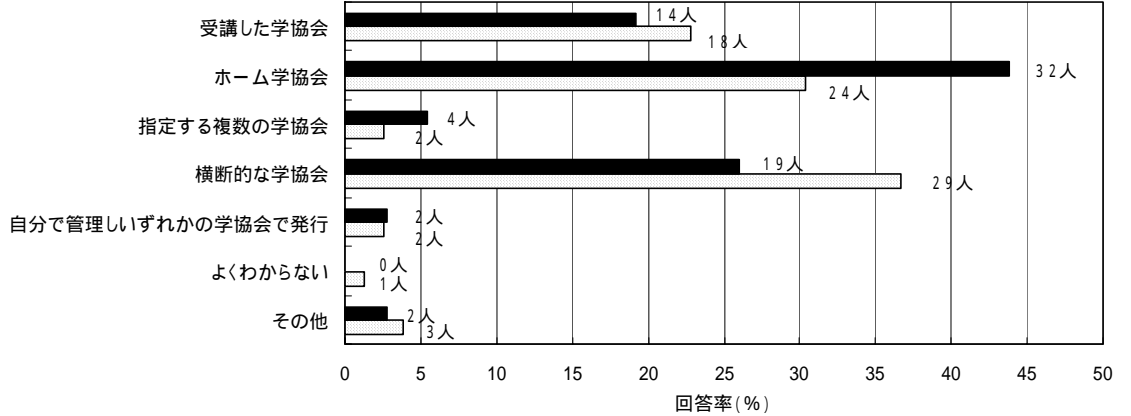


図-2 どの学協会がCPD記録を発行すべきか？

にまたがって継続教育を受けようになると、CPD取得証明書が重複しないようにすることが重要であるが、このためには、CPD取得証明書をどの機関が発行すべきか、また、その対価はどの程度であるべきかが重要になってくる。これに対するアンケート結果を示した結果が、図-2である。ここでは、今までに継続教育を受講した経験のあるグループと無いグループに分けて、結果を示している。CPD取得証明書をホーム学協会が発行すべきと答えた回答者の割合は、継続教育を受講した経験がないグループでは25%であるのに対して、継続教育を受講した経験のあるグループでは43%と大きく増加している。

一方、CPD取得証明書を日本工学会のように技術横断的な学会が発行すべきと答えた回答者の割合は、継続教育を受講した経験がないグループでは38%であるのに対して、継続教育を受講した経験のあるグループでは29%と減少している。CPD記録を受講した学協会に管理したいと答えた回答者についても同様な傾向がある。

**5. 異なる学習プログラム間の単位の互換性**

将来、複数の学協会にまたがって継続教育を受講し、これらに基づいてCPD取得証明書を発行するようになると、学習プログラム間での単位の互換性が重要になってくる。同一のプログラムを受講した場合に与えられる単位が学協会間で異なると、不公平であるばかりでなく、継続教育そのものの

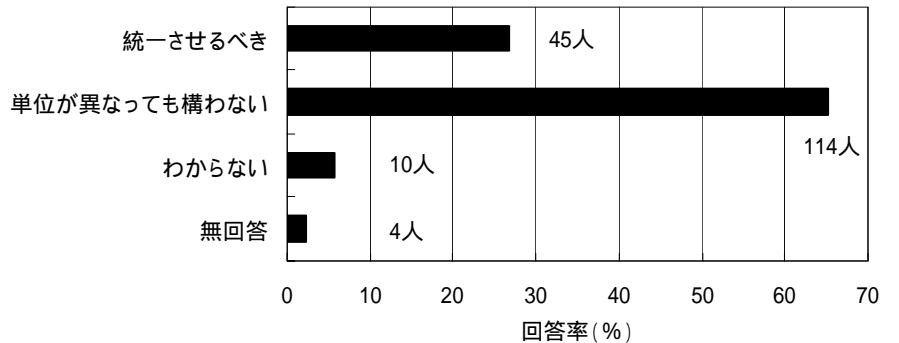


図-3 異なる学習プログラム間の互換性はどのようにすべきか？

信頼性が失われる可能性があるためである。学習プログラム間の単位の互換性はいかにあるべきかに関して調査した結果が図-3である。CPD単位の互換性として、基本が一致していれば細部は異なってもかまわないという意見が66%と最も多く、CPD単位の与え方は統一させるべきであるとの意見は26%である。

**6. まとめ**

受講履歴の取り扱いと異なる学習プログラム間の単位互換性は、今後の継続教育の発展にとり避けては通れない重要な事項である。今後、ソフト、ハードの進展も視野に入れ、慎重に検討していくことが求められている。

**7. 謝辞**

本調査は、(社)日本工学会のPDE協議会(大橋秀雄委員長)の受講履歴統一化専門委員会を実施されたものである。調査に際しては、PDE協議会加盟の37学協会のご協力を得た。また、受講履歴統一化専門委員会の委員から各種のご指導を得た。ここに記し、厚くお礼申し上げる。